

つれづれなるままに 第15号

令和2年7月10日（金）発行



校長 深谷 浩一

ジョージ先生，自転車盗難！ ～一本の電話で一件落着！～

昨日，ちょっとうれしいことがありました。

羽鳥駅に駐輪していたジョージ先生の自転車が誰かに盗まれてしまったのですが，心ある人からの連絡で，その自転車が無事ジョージ先生のところに戻ったのです。

当初，ジョージ先生は慌ててしまい，施錠しなかったことを悔やんで，とても落ち込んでいましたが，昨日の朝，学校に「本校生の自転車が池の近くに放置されている。」という電話が入り，話が急転。現場を確認したところ，ジョージ先生の自転車であることが判明したのです。

電話をかけてくれた人が名前を名乗らず，確認のしようがなかったため，とりあえず，電話でその人が言っていた付近に行ってみました。すぐに現場を確認したのが良かったのかもしれない。何と施錠された状態で見つかったのです！放置されている自転車がジョージ先生のものという確信はなかったものの，本校のステッカーが付いていたことから「本校生の自転車である確率が高かったため行ってみることにしたのです。「ダメ元」でジョージ先生も連れて行くことにしました。

その自転車は，舗道に施錠したままの状態置いてありました。駅で盗んだ人がこの場所において，ついていた鍵で施錠したものと思われました。現場に行くのが遅れたら，盗難の「犯人」が舞い戻ってにまた乗って行かれたかも知れません。

自転車を確認したジョージ先生は，それが自分の自転車と分かり，大喜び。反省を含めて拾ってくれた人に礼状を書いてくれました。その礼状と，参考までに日本語訳を付けておきます。



Here is the letter I wrote about my bike.

Yesterday, my bike was stolen. It was totally my fault: I left it at the station and spent the day at another school, but I forgot to take the key out of the lock! Of course, when I came back in the evening I couldn't see it anywhere. I was very angry at myself for making such a silly mistake, and I started to think about where to buy a new one.

I was going to visit the police station to check if somebody had handed my bike in, but many English people who I talked to said it was unlikely. In the UK, if your bike is stolen, you'll probably never see it again. So I was very surprised when today, somebody called Chuo to say that they'd found it! It was about a mile away from the station.

I was so happy: I think that if I was not in Japan, I would never have got my bike back. It just goes to show that even if one person is bad, many more are willing to help. Actually, it was a very strange experience – I really thought it was gone forever. They even pumped up the tyres!

I'm a very lucky guy. Next time, I'll definitely lock my bike!

(日本語訳)

これは自分の自転車について私が書いた手紙です。

昨日、私は自転車を盗まれました。安全に私の不注意でした。私は駅の駐輪場に自転車を止め、その日は勤務する別な学校へ行きましたが、その際、鍵を掛けるのを忘れてしまったのです。当然のことながら、夕方戻ってみると自転車はどこにも見当たりませんでした。私はそんな愚かなミスをしてしまった自分自身に腹を立て、新しい自転車をどこで買おうかなどと考え始めました。

私はまず、誰かが届けていないか確認するために交番に行ってみようと思いました。でも私の話を聞いた多くのイギリスの友人たちは、(交番に届けるなんて)「そんなことをする人はいないと思うよ。」と言っていました。実際、イギリスでは盗まれた自転車を再び見ることができるなんてあり得ないのです。だから、私は今朝誰かが学校に電話をくれて自転車を見つけたことを知らせてくれたことにとても驚いたのです。自転車は駅から約1マイル(約1.6キロ)のところにあったのです。

私はとても喜びました。もしこれが日本でなかったら絶対自転車を取り戻すことはできなかったでしょう。自転車を盗むような悪い人がいても、そういう人よりもっとたくさんの方が進んで助けてくれるということなのでしょう。本当に奇妙な体験をしました。絶対戻ってこないと思っていました。それにタイヤの空気まで一杯に入れてくれて。

私はなんて幸運な男なのだろう。次回は必ず鍵を掛けることにします。(おわり)